

農村環境保全活動賞

ひろながちいきしげんほぜんたい

広長地域資源保全隊【大崎市】



本地域は、大崎市鹿島台の中西部の沢地ではほ場整備完了間近となっている。ほ場整備の地区外になる溜め池・水路の整備に力をいれて取り組んでいる。

良好な自然環境が育まれているため、大崎市の天然記念物となっている絶滅危惧種「シナイモツゴ」が生息し、地域の宝として守り増やそうと取り組んでいる。

【組織概要】 活動組織

- ・取組開始 平成19年度
- ・取組面積 35.5ha
(田 35.5ha)
- ・取組活動
農地維持支払活動
資源向上支払(共同)活動
資源向上支払(長寿命化)活動

取組にあたって

【課題】

活動開始10年となり、少子・高齢化の進展で活動参加人員の確保が難しくなってきた。また、活動への参加時間が短時間になる参加者が増加してきている。

ブラックバスの駆除を毎年実施してきたが、地区外の釣り人による再放流で振り出しになる溜め池も見られている。

【保全管理】

高齢化の進む中で、活動の作業班体制の確立が最大の課題となっており、大型草刈機による保全管理の検討も進められている。



【ブラックバスの捕獲】

【シナイモツゴ郷の米
刈り取り体験】

取組の内容

■景観形成活動として、農道等の余裕地への花の植栽により、散策のコースとし親しまれている。

■ため池のブラックバス駆除活動は毎年度実施し、生態系の回復とシナイモツゴの放流のため池として使えるよう保全。

■NPO法人「シナイモツゴ郷の会」と連携し、小学校の里親制度で育てられた稚魚の放流活動を続けている。

■「シナイモツゴの棲むきれいな溜め池の水で栽培された米」に付加価値を高めようとNPO法人が認証制度を作り、平成20年度から「シナイモツゴ郷の米」として生産。

■他の団体と連携した「シナイモツゴ郷の米」の収穫体験や学習会などを実施。

■「集落を知ろう」と題して、平成24年度からの冊子の作成や広報誌、年間の活動をしることができるようカレンダーなどを作成し活動を地域内外にPRしている。

■平成27年度からは「施設の長寿命化」にも取り組み、水路の維持管理負担を軽減している。



取組の効果

■ほ場整備事業から外れた溜め池や水路の補修が順次進められ、管理の負担が大幅に軽減された。

■ブラックバスの駆除を毎年度実施した事により、地域の2級河川、広長川のブラックバスが減少して来た。

■シナイモツゴの棲むきれいな溜め池の水で栽培された米「シナイモツゴ郷の米」を、特色あるブランド米として認知を高め、農業所得の向上を図って行く。



【カレンダー作成】



【活動が新聞に】